

津ライスニュース 令和2年産第2報

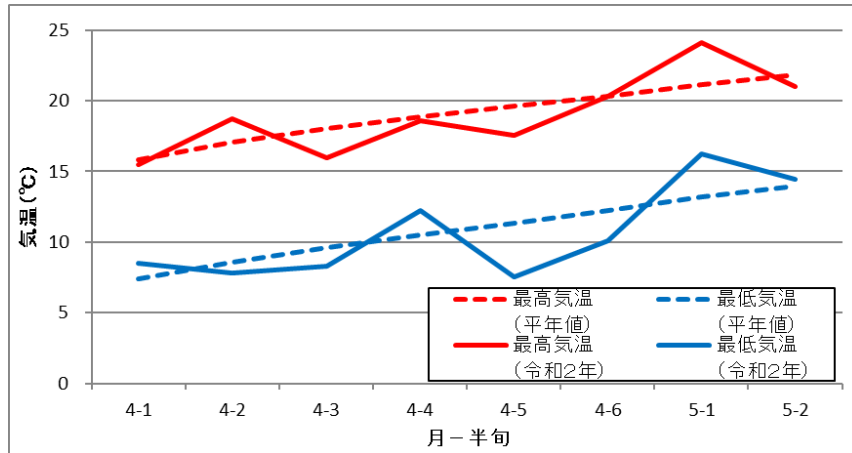
令和2年5月15日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

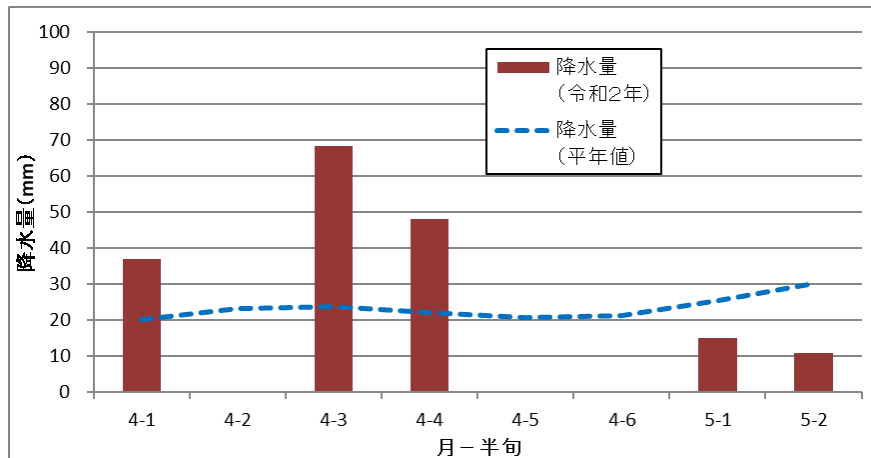
<気温>

4月は全般に気温が低く、4月下旬には最低気温が低い日があり冷え込みました。



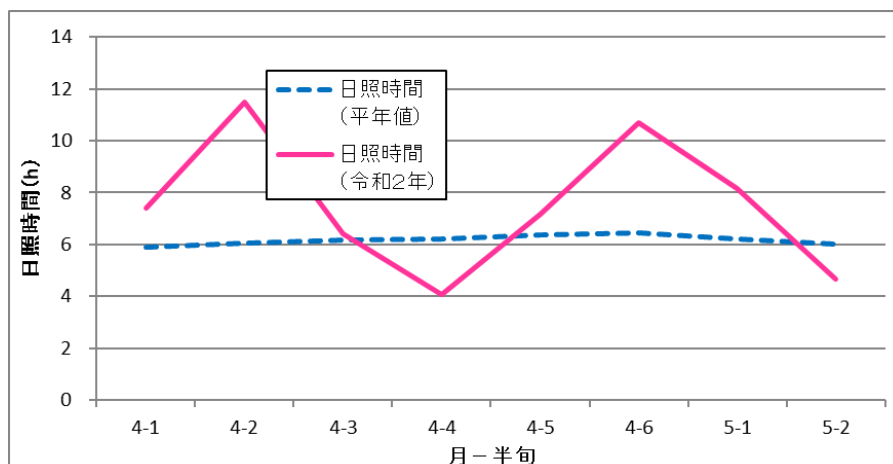
<降水量>

4月1日、13日、20日にまとまった雨が降りましたが、総降水量は平年並みの状況です。



<日照時間>

4月第4半旬を除き晴れた日が多く、例年より日照時間は多く推移しています。



生育の概況

育苗期間中は全般に気温が低く、苗が伸びにくく、苗丈は短めでしたが、根張りはまずまずでした。田植え時期の中心となる4月下旬は天候がよく、作業は順調に実施されました。

4月下旬が低温であったことから、やや活着までに時間を要し、一部で植え傷みをしたところも見受けられますが、その後の天候により回復してきています。田植えの早いほ場では、分けつも出始めています。

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

今後、いもち病発生に適温(25~28℃)となる時期を迎えます。現時点では本田での発生は確認されていませんが、今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めにはほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。

<害虫(イネミズゾウムシ、イネゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクロカメムシ)>

三重県病害虫防除所の発生予報第1報(4月23日)では、イネミズゾウムシについて、発生時期はやや遅く、発生量は少と予想されています。山沿いや常発地では今後、害虫の発生増加も予想されますので注意してください。

今後の栽培管理

<中干し>

中干し開始は移植後35日前後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分けつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

6月に入ったら、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとも水管理が楽になります。

- ***茎数が多い場合** →中干しを早い目に、やや強く行います。
ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。
- ***茎数が少ない場合** →中干しを遅い目に、弱く行います。

<除草>

4月中旬の降雨や漏水などで除草剤の効果が劣り、ノビエや広葉雑草の発生がある圃場では、早めに中後期剤を散布しましょう(ただし、成分回数や使用時期=特に収穫前日数に注意してください)。